

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

2024年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2024/05/10 現在

科目Ⅲ

（職業倫理・行為基準、数量分析と確率・統計、市場と経済の分析）

第1問（10点）

問1 A 問2 B 問3 A 問4 C 問5 D

第2問（20点）

I 問1 C 問2 B 問3 C 問4 D 問5 A

II 問1 E 問2 D 問3 A 問4 B 問5 C

第3問（15点）

I 問1 D 問2 B 問3 A 問4 D 問5 E

II 問1 D 問2 B 問3 C

第4問（23点）

I 問1 A 問2 E 問3 C 問4 A 問5 B 問6 B 問7 A

II 問1 D 問2 A 問3 D

III 問1 E 問2 D 問3 E

第5問（22点）

I 問1 D 問2 A 問3 C 問4 E 問5 B 問6 C

II 問1 C 問2 B 問3 B 問4 E

III 問1 C 問2 D 問3 D

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2024年（春）証券アナリスト1次試験

科目III（職業倫理・行為基準、数量分析と確率・統計、市場と経済の分析）

■職業倫理・行為基準

問題	2022年秋	2023年春	2023年秋	2024年春
第1章 証券アナリスト 職業行為基準の概要	問1	問1、問3	問1	問1
第2章 職業的専門家に 重要な信任義務	問4	問2	問2	問2、問3
第3章 信任義務を果た すための忠実義務	問2、問3	問4	問3	問3
第4章 信任義務を果た すための注意義務	問4、問5	問5	問4、問5	問4、問5

過去4回の試験と同様に、第1問として計5問が出題された。問1が協会通信テキストの第1章「証券アナリスト職業行為基準の概要」、問2と問3Bが第2章「職業的専門家に重要な信任義務」、問3が第3章「信任義務を果たすための忠実義務」、問4、問5が第4章「信任義務を果たすための注意義務」に関する出題であった。春試験では選択肢の中から正しいものを選ばせる問題が3問、正しくないものを選ばせる問題が1問、穴埋め問題が1問出題された。忠実義務や注意義務だけでなく、それらに付随した条項に関する出題もみられ、今回は投資の適合性の確認等に関する問題が出題された。

■数量分析と確率・統計

今回の本分野の出題は以下の通りであった。

第2問（20点）				
		テーマ	問題形式	協会通信テキスト
I	問1	時間加重収益率	計算問題	第2章 投資リターンと利回り
	問2	正規分布と対数正規分布	正誤選択	第4章 確率分布
	問3	微分	正誤選択 (計算含む)	第7章 微分と最適化の基礎
	問4	マクローリン展開	計算問題	第7章 微分と最適化の基礎
	問5	ラグランジュ乗数法	正誤選択	第7章 微分と最適化の基礎
II	問1	標本標準偏差	計算問題	第5章 推定と検定
	問2	変動係数	計算問題	第3章 確率と統計の基礎
	問3	正規分布 (ショートフォール確率)	計算問題	第4章 確率分布
	問4	信頼区間	計算問題	第5章 推定と検定
	問5	仮説検定	正誤選択	第5章 推定と検定

「数量分析と確率・統計」は、従来通り第2問Ⅰ・Ⅱで配点20点。Ⅰがそれぞれ独立の個別問題、Ⅱが共通の設定に基づくユニット問題という構成も従来通り。ただ、Ⅰが従来の小問8（または7）問から5問に減り、Ⅱが従来の小問4問から5問に増えている。

出題分野について見ると、Ⅰの5問中3問が微分に関する問題。回帰分析の出題はなかった。ややバランスを欠く印象を受ける。

個別テーマで見ると、「ラグランジュ乗数法」、「変動係数」は今回が初出。新カリキュラム導入後5回の試験を経て、主だったテーマはこれでほぼ出題されたように感じられる。

難易度については、確率の基礎に関する抽象性の高いテーマや回帰分析の出題がなかったこともあり、受験者にとっては比較的易しかったのではなかろうか。

■市場と経済の分析

今回の春試験は、試験制度の改正により「経済」から「科目Ⅲ」に改編されて5回目です。「科目Ⅲ」のうち、第3問から第5問までの「市場と経済の分析」についてみてみますと、試験制度の改正以降、難度が高い試験が続いていましたが、今回の試験では、難度は高いものの、制度改正後の出題内容を踏まえて、しっかりと学習した方にとっては、確実に得点できる問題が多くみられました。

大問別に今回の試験内容を概観して見ますと、第3問（ミクロ経済）では、消費者行動の分析（上級財と下級財、ギッフェン財、市場需要曲線、エンゲル曲線、需要の所得弾力性など）、企業行動の分析（損益分岐点など）、完全競争市場（成立条件、比較静学など）、不完全競争市場（独占的競争市場、ハーフィンダール・ハーシュマン指数、独占企業の生産量、クールノー均衡での企業の生産量と消費者余剰など）から出題されています。

第4問（マクロ経済）では、国民経済計算（GDP、付加価値と要素所得、寄与率など）、IS-LM分析、AD-AS分析、インフレ・デフレの社会的コスト、労働市場と失業、景気循環の理論などから出題されています。

第5問（金融と財政、国際経済）では、信用創造、資金循環統計、日本銀行、日銀当座預金の増減要因、金融政策と財政政策、貯蓄投資バランス、国際収支統計、マーシャル＝ラーナー条件、カバーなし金利平価、関税の効果などから出題されています。